

中学校部活の地域移行について、教員の働き方改革の一環として進められているものと理解しますが、今の部活動時間で指導できるのは、働き世代から退いた高齢者たちです。働き世代の方々が部活動へ出向き、指導できるような体制も検討すべきだと思います。



西村区 竹中会長



岸教育長

部活動の地域移行は教員の働き方改革がその要因の1つと考えますが、今まで通り部活動を指導したいという教員の皆さんもいます。大事なことは部活動指導は学校がやるもの、地域がやるものではなく、地域の実情に応じた体制を考えることが非常に重要です。地域の実情を見据え指導者の実態も把握しながら、指導のあり方について名寄の独自スタイルを構築できるよう考えていきたいと思っています。

チャレンジデーについて、まず農村部で5月下旬という期間は非常に繁忙しています。その中、私たちもラジオ体操を町内会で実施し報告しました。全国的なイベントですので、開催時期の変更はできないものと思いますが、せめて名寄市として実施している以上、相手に勝つための努力をしてほしいです。運動種類の項目の中には農作業という項目があり、農業に携わっている方は当然、この時期全員が対象となるはずですが、全体の人数で9800人ほどの参加者という結果だったので、そもそもこのイベントが浸透していなかったのではと考えてしまいます。今後も実施していくと思いますので、もう少し市民への周知を強化してほしいです。



東風連 武田会長

チャレンジデーは5月の最終水曜日に全国的に実施されるもので、農繁期真っ只中での協力をいただき、大変ありがとうございます。チャレンジデーの実施は、一昨年は中止、昨年は時期をずらし10月開催ということで、3年ぶりの5月開催となりました。新聞や広報誌でも周知を図りましたが、まだコロナ禍の影響もあったかと思っています。報告の方法についても、昨年までは電話やFAXのアナログ対応が主でしたが、今年は市独自でLINEで報告を受けられるよう整備し、結果としても多くの報告をLINEでいただいたところです。次年度以降は、多くの方に報告してもらえるよう方法を整備し周知していきます。また、コロナ禍前に実施していた市民綱引き大会の開催も検討していきます。



松田 ことば高齢者支援室長

農村部でも農業をリタイヤし、家を空けて都会の方へ出ていかれる方も少なくない状況です。家の解体は非常に高額なため、これ以上空き家を増やさないために、新築や増改築に対しての補助金があると思いますが、解体に対して補助金をだすようにすれば解体してもらえらると思うのですがいかがですか。



東風連 武田会長



松本 副市長

空き家対策は非常に大きな問題で、議会においても質問をいただいています。しかし、家屋の解体は本来所有者がすべきことですので、税金を投じてまで解体することは非常に難しいです。ほかの自治体の事例も調べながら、もう1歩進んだ施策がとれないか検討させていただきます。

大学の今後の運営について、少子高齢化により日本には若者が少ない事実もあります。そういった意味で、大学の学生数を確保するという点では、もっともっと国際化をしていくべきだと思いますがいかがでしょうか。



1区 岡本会長



加藤市長

名寄だけでなく日本全体で生産年齢人口が少なくなっています。サービスの需要はあるのに人がなくて提供できない分野・業界があり、特に介護分野が顕著に現れています。試験的ですが、社会福祉事業団が受け皿となって外国人労働者を受け入れるモデル事業を行う予定です。専門職員からの助言をもらって進めていきます。介護人材だけでなく、さまざまな分野の人材が集まればと思いますし、大学でもそういった視野も重要で、日本の人口だけでは需要をまかなえ切れない中で、外から人を呼び込み一緒に地域を作っていくことが重要と考えています。

7月1日(金)に、市内ホテルで町内会長と行政との懇談会が行われ、町内会長の皆さまから貴重なご意見・ご提言をいただきました。その質疑内容および回答の一部をお知らせします。



◆問い合わせ
総合政策課総合政策係(名寄庁舎3階)
☎01654③2111(内線3311)

私たちの地区では市の上水道が整備されていません。1軒1軒の距離が長く、整備が大変かと思うが、上水道の整備計画に盛り込んでいただけませんか。



中名寄 水間会長



佐藤 上下水道会長

上水道として整備する場合、専用水道としての運用となるため接続戸数の上限など条件があり、取り組むことが難しいと考えております。地域の水道としてほかにいい方法がないのか、農業部局や衛生部局、市全体で相談しながら検討すべきだと思いますので、要望として受けさせていただき考えてまいります。

私個人として、にこにこらんどで行われているNスポ健康ステーションに毎回参加しています。とても非常に体に良く、ものすごく元気になっています。現在は8月23日までの日程しかありませんが、以降での開催も検討してほしいです。



7区 倉本副会長



石橋 総合政策部長

1つの区切りとして8月をめぐりに、にこにこらんどがある(株)西條さんとも協議しながら開催予定を組んでいたところです。今、うれしいをお話も聞かせていただいたので、ぜひ持ち帰らせてもらい、今後の予定を協議いたします。

にこにこらんどの利用について、現在は子どもがあまり利用していないように見受けられます。今年、遊具を追加するとお聞きしましたが、まずは利用するにあたって事前予約しなければならない点や親同伴でないと利用不可という点など、改善が必要なのではないのでしょうか。



7区 倉本副会長



松田 ことば高齢者支援室長

にこにこらんどは、冬期間でも利用、また雨が降っても遊べる場所という要望から室内での開設となっています。夏期は外で遊ぶことが多いため、利用者数が減少していると分析しており、また幼児を中心とした遊具を先に整備している状況ですので、大きい子にはもの足りないものと考えています。そのため、今年はアスレチック系の遊具を整備する予定としています。予約制については、コロナ禍の影響もあり、人数を制限する目的で行っていました。まだまだ予断を許さない状況とも思いますので、都度判断をし改善を図ってまいります。